

正誤表

頁	箇所	内容
2・3		別紙の通り差し替える
11	下段本文8行目	(誤) 淵江は、本木・花又(現花畑)・保木間の三村を指したという (正) 淵江は、本木・花又(現花畑)・伊興の三村を指したという
20	史料文	(誤) 葛西要害以忍乗取申付者 (正) 葛西要害以忍乗取上申付者 (誤) 葛西一力ニ乗取至指上申者 (正) 葛西地一力ニ乗取、至于指上申候者
35	史料文	(誤) 河合出羽守力丸藤左衛門以下三百騎 (正) 河合出羽守・力丸藤左衛門以下三百騎
38	本文後ろから9行目	(誤) 北条氏政から直接朱印状が公布されるようになってる。 (正) 太田源五郎から朱印状が公布されるようになってる。
43	No.1解説1行目	(誤) 越後国の守護代長尾為景(後の上杉謙信)の子。 (正) 越後国の守護代長尾為景の子。
51	No.6解説1行目	(誤) 人数などを新領主である北条氏に正確に (正) 人数などを太田源五郎(北条氏政の実子)が正確に
53	No.6表題	(誤) 6 応永二十年(一四一三) 五月二十日 足利持氏寄進状 (正) 6 応永二十年(一四一三) 五月二十日 足利義持寄進状
54	No.12 5行目	(誤) 藻塩草まきれぬ玉のかすくハひろひのこすもあかぬ光を (正) 藻塩草まきれぬ玉のかすくハひろひのこすもあかぬ光を
54	No.13 1行目	(誤) 東下総守 胤書状ニ (尚脱也) (正) 東下総守 胤書状ニ
59	下段後ろから3行目	(誤) 其時山楽眼ヲ苛ラケ (正) 其時三楽眼ヲ苛ラケ
65	No.38・39文書表題	(誤) (天正九年・一五八二) 六月二十六日 北条氏政印判状写 (正) (天正九年・一五八二) 六月二十六日 太田源五郎印判状写
73	上段「重経」の項後ろから3行目	(誤) 子共ノ命ハ可祐由申越サル、 (正) 子共ノ命ハ可祐由申越サル、永禄六年癸亥年八月十四日生害ス
85	下段後ろから10行目	(誤) 天正9年 1581 6月26日 北条氏政、澁江百姓中に対し (正) 天正9年 1581 6月26日 太田源五郎、澁江百姓中に対し
85	下段後ろから1行目	(誤) 天正18年 1590 7月10日 小田原城開城し (正) 天正18年 1590 7月9日 小田原城開城し
86	下段前から7行目	(誤) 加増啓二『東京北関東地域の中世的空間』 (正) 加増啓二『東京北東地域の中世的空間』

目次

ごあいさつ	1
もくじ・凡例	2
足立区関係地図	3
序章 足立をめぐる戦国武将	4
第一章 三氏の成り立ち	6
第二章 足立の城・館	12
第三章 足立とその周辺の攻防	18
豊島・宮城文書の世界	26
終章 三氏のその後	34
付編 戦国時代の足立区の板碑	41
資料解説	43
足立区関係資料集	52
付録 中曽根城のイメージ図	82
関係者系図	84
年表	85
主要参考文献	86
協力者・協力機関一覧	87

凡例

一 本書は平成三十年度足立区立郷土博物館企画展「戦国足立の三国志―宮城氏・舎人氏・武蔵千葉氏―」（会期：平成三十一年三月十九日～五月六日）の展覧会図録である。

二 本書の構成と展示資料および資料番号と展示順序は、施設構造と書籍の構成差から合致しない。また展覧会は資料保存および展示構造上、展示期間中に一部展示替えを行うため、掲載作品が会期中に展示されていない場合がある。

三 本展示は、特に加増啓二氏の『戦国期東武蔵の戦乱と信仰』岩田書院（二〇一三年）及び『東京北東地域の中世的空間』岩田書院（二〇一五年）を参照して企画・実施した。

四 資料は、番号・資料名・文書群名・成立年代・所蔵者の順で記し、所蔵者以外から画像提供を受けた場合は、提供者を記した。

五 地名の表記は歴史的経緯から、「岩槻」は「岩付」、「川越」は「河越」、「葛西」は「葛西」を用いた。

六 会期中、左記の日程でご講演を賜った。

四月二十一日 新井浩文氏（埼玉県立歴史と民俗の博物館学芸員）

四月二十八日 久保田昌希氏（駒沢大学教授 前副学長）

七 スタッフ

事業総括 館長 網野孔介

構成・企画展覧会実施・本文執筆 佐藤貴浩（足立区地域のちから推進部地

域文化課文化財係学芸員）

写真撮影 山野健一（当館調査員 難波田城文化財資料整理専門員）

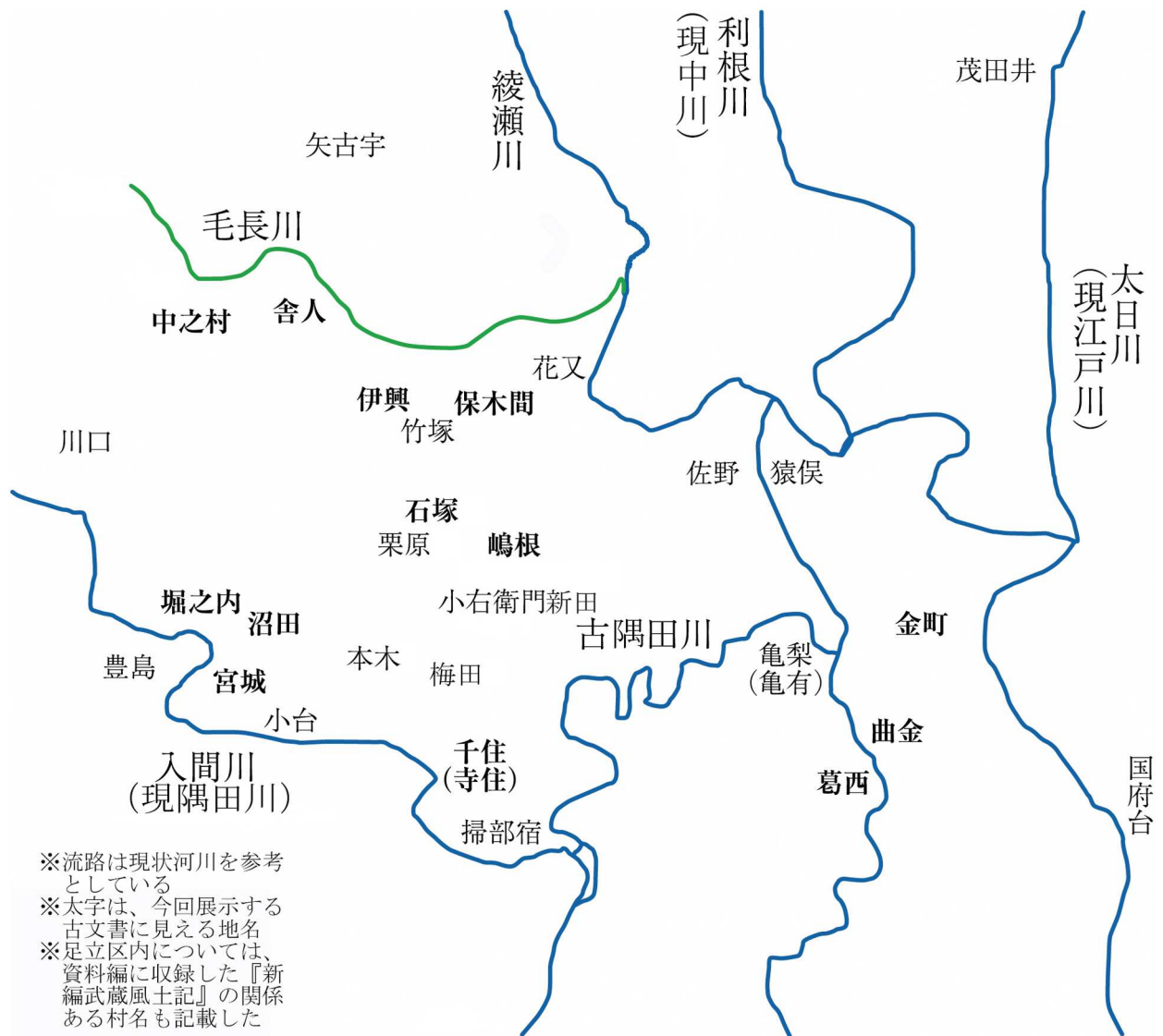
イラスト 株式会社しまや出版

Reco（イラストレーター）

広報 江原朱理（当館職員）

展示用作画 奥村麻由美（当館専門員）

展示演示具政策 株式会社トリアド工房



足立区関係地図